

IN MY LIFE

新井 慶大

●参加理由

私は、英語を小さい時から習っていることもあって、英語が好きだ。しかし、今まで一度も海外経験がないのはもちろん、飛行機にすら乗ったことがなかった。本場の英語を学びたい。純粹に海外へ行きたい。こんな理由でいいのか、と思いつつ、Oxbridge 研修に臨んだのである。

●研修概要

この8日間を振り返ってみると、Oxbridge 研修は私にとって新発見の連続だった。ここでは、私が特に印象に残っていること、興味深かったことなどを記す。

・イギリス、初の海外の地へ

イギリスに到着して、私は息をのんだ。風景、雰囲気、何もかも違う。ついに来てしまった。理由のない安堵感の傍ら、とてつもない不安に駆られていた。

・本当の「会話」とは

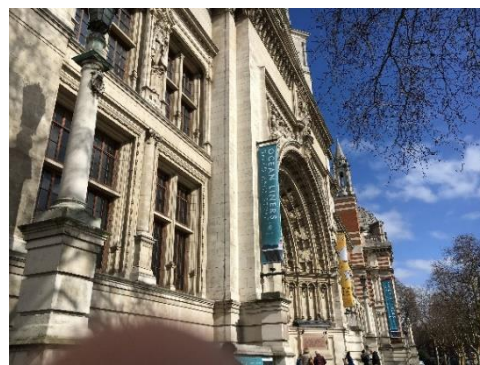
現地大学生の Beatrice、Jacob、Peter の3人 (RA) に挨拶しようと思い、話しかけてみた。3人とも快く私を受け入れてくれて、本当に嬉しかった。自分の英語が通じたという喜びを感じると同時に、ここで満足してはいけないという感情が芽生えたのであった。最初の食事の際に RA の近くに座り、積極的に話しかけようとしたが、できない。自分の中に勇気と対峙している不安がそこにはあった。話しかけてもらったときは楽しく英語で会話できても、自ら発信しなければ意味がない。そう思い、次の食事からは殻に閉じこもった自分に別れを告げ、自分から話しかけた。すると、不思議と気持ちが楽になった。以降、Cambridge Science Festival や市内観光の時も、RA と会話をしながら過ごした。本当の「会話」とは、英語などの言語を使用するだけでなく、言語という「道具」を使用して自分と相手を繋ぐことなのだと思った。

・Chris との出会い

Chris 先生の授業を初めて受けた時、私に衝撃が走った。この人の話は何かが違う、そんな曖昧な思いを胸に、私は回数を重ねるごとに彼の魅力に引き込まれていった。日本の授業とは異なり非常にアクティブで、生徒が心から楽しめる工夫が成されていた。ある明確なテーマに沿って行う授業では、知的好奇心や疑問を常に持ち、より深く分析的に学ぶことができた。普段からこの精神を忘れずに生きていくことが、自身の成長に繋がると思った。

・プレゼンテーションの意味

5日目に、RA、Chris 先生を含む計6人の聴衆を前に、私たちは班ごとにプレゼンテーションを行った。私は Chris 先生の授業を通して、本番前からプレゼンの本質に薄々気づいていた。一語一句正確に話すよりも、いかに自分の考えが相手に伝わるかが最も大事なのだと。私は自分の班のテーマ「おもてなし」について認知してもらいたいと思いながら原稿を作った。しかし、文面だけでは伝わらないのではと思い、本番では原稿を見ずに全身を使って表現できた。我ながら上出来だった。今回のプレゼンから、自身の考え・意見を持つことの重要性を改めて感じたのであった。

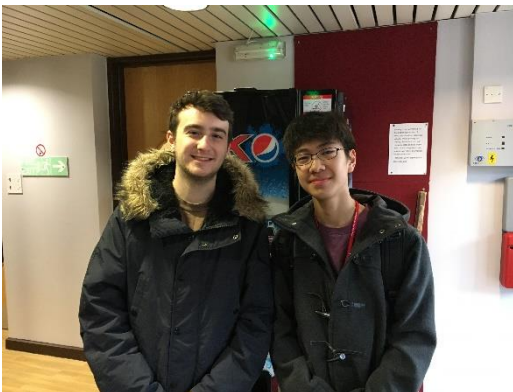


・世界視点から「自分」視点へ

海外で活躍されている紅林さん、岡本さんや、日本人留学生の話聴いて、単純に凄いと思った。何が凄いかというと、それぞれの話は違うのにも関わらず、全員が口を揃えて、「自分の先を見据えることや、多様な視点・価値観から熟考することが大切だ」と言うのだ。これはただの偶然ではない、活躍している人は皆、世界全体としての視点を超越して、もはや「自分」に帰着させているのだと感じた。私はこれらの講演を通して、自分という存在を尊重して未来のその先を見る、そのためには常日頃から批判的な立場で個人の考えを持ち、具体化してみることが必須であることを学んだ。

・自分を見ること

帰国を控えた研修の最終日、私たちは研修全体の反省やフィードバックをした。一人一人の生徒の考えを取り入れることができ、私にとってこの時間は自分探しのきっかけとなった。引率の加藤先生が、抽象的な目標ではなく掘り下げて考えることによって、今後の目標を見つけ、達成するために何をすべきかについて探求することが重要であるといった要旨の発言をされた。また、名声や権威に囚われずに自分が興味を持っているものや、自分が心から楽しめる、熱中できるものを職業にすることの意味も教えてくださった。私ははっとした。私は今まで、将来安定した職業に就きたいと思っていたのだが、それは正解ではなかった。自分が真に没頭できることを探し、目標を自ら設定し、成功への過程を形成することこそが、自分の将来の職業を正しく選択し、あるがままの自分を表現できるチャンスである。



ここで私はふと思った。自分は何のために英語を勉強しているのか。英語が世界の共通言語だからだろうか。グローバル人材として海外で活躍したいからなのだろうか。どれも間違っていないが、どうもしっくりこない。それもそのはず、私は純粋に英語を楽しみたいから勉強しているのである。いや、もはや勉強ではなく遊びなのかもしれない。この考えを将来に適応させれば、必然的に自分に見合った未来が導かれると強く思った。それを私に教えてくれた加藤先生にはもちろん、この研修にも感謝したい。

●研修を終えて

Oxbridge 研修の8日間は私にとってかけがえのない、非常に充実したものとなった。

思い返せば、深く熟考する方法と重要性、何かをする時の明確な目的や理由の必要性、全体と個人を比較して初めて見える物事の本質を探る意味など、数えたら無数にあるくらい多くの事柄を学ぶことができた。ところで、私の研修への本当の参加理由は何だったのか。今なら自信をもって言える。私の「人生の指針」、すなわち一度きりの人生を精一杯楽しむ方法を見つけるためだ。

今後の日本での生活において、研修で得たものを発揮してからが本番だと思っている。

最後に、引率の加藤先生、ISAの松井さんをはじめ、今回の研修を支えてくださった自校の先生方、共に研修を成功に導いてくれた友達、そして、研修に参加させてくれた私の両親に、心からの感謝の気持ちを込めて、私の研修報告書とする。